資料１

令和２年 12 月 21 日
学生部入試課作成

令和３年度大学入学共通テストについて

1. 大学入学共通テストへの移行について

2013 年、教育再生実行会議第四次提言（高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について）において提言され、高大接続改革（高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革）における「大学入試改革」の目玉として、大学入試センター試験に代わる新テストである。

情報化社会の進展や急速に進む少子高齢化、グローバル化といった変革期において、自ら問題を発見し、他者と協力して解決していくための資質や能力を育む教育が必要として、「大学入試改革」ではこれまで以上に多面的・総合的に能力を評価する入試への転換が掲げられ、学力の３要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を入試でバランスよく評価することが求められている。

これまでの大学入試では、センター試験を中心に「知識・技能」の評価に重きを置いたテストが実施されてきたが、2021 年度以降の入試では知識を前提にそれを活用する「思考力・判断力・表現力」を一層重視した評価をするために、センター試験を廃止し、共通テストへ移行される。

2. 試験期日　新型コロナウイルス感染症の影響により学習の遅れが生じた受験生に配慮し２つの日程を設定

第１日程：令和３年１月 16 日（土）・17 日（日）　※県内 12 試験場で実施
第２日程：令和３年１月 30 日（土）・31 日（日）　※本学１試験場で実施

3. 志願者数　535,245 人〔対前年度 22,454 人減〕

【期日別内訳】
- 第１日程　534,527 人
- 第２日程　718 人

【区分別内訳】
- 高等学校等卒業見込者（現役生）　449,795 人〔対前年度　2,440 人減〕
- 高等学校等卒業者（既卒者）　81,007 人〔対前年度 19,369 人減〕
- その他（高卒認定等）　4,443 人〔対前年度　645 人減〕

○現役志願率※1　44.3%〔対前年度　1%増〕

○大学入学共通テスト参加大学・短期大学数　866 大学　〔対前年度　8 大学増〕
〔内訳〕国立大 82, 公立大 91, 私立大 533, 専門職大 5, 公立短大 13, 私立短大 142

※１「現役志願率」: 令和２年３月高等学校等卒業見込者（現役生）のうちセンター試験に出願した者の割合。（センター試験志願者のうちの現役生の割合ではない。）

4. 志願者数（沖縄）

志願者　5,543 人　〔対前年度　5,860 人　317 人減〕
【期日別内訳】
- 第１日程　5,536 人
- 第２日程　7 人

5. 沖縄県の試験場

県内に、離島（宮古、八重山）２つを含む 12 の試験場

都道府県名	試験実施大学名	試験場名	志願者数（第１日程）	志願者数（第２日程）
沖縄県	琉球大学	琉球大学文系講義棟試験場	601	－
		琉球大学教育学部試験場	410	－
		琉球大学理学部試験場	382	－
		琉球大学共通教育棟試験場	750	7
		琉球大学工学部試験場	539	－
		沖縄国際大学試験場	306	－
		県立宮古高等学校試験場	131	－
		県立八重山高等学校試験場	109	－
		計	3,228	7
	沖縄県立看護大学	沖縄県立看護大学試験場	342	－
	沖縄県立芸術大学	県立那覇国際高等学校試験場	560	－
	沖縄大学	沖縄大学試験場	859	－
	名桜大学	名桜大学試験場	547	－

資料２

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

PRESS RELEASE

学長記者懇談会資料

JST 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) に本学の学際的チームが採択され、資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖プロジェクトを開始

JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が今年度より新たに開始した「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の育成型に、本学の学際的チームと沖縄高専、中城村、オリオンビール(株)等企業が参画する産学官連携研究プロジェクトが採択されました（育成型：採択率 18%、応募件数 67 件、採択件数 12 件）。
資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖プロジェクトを沖縄から開始します。

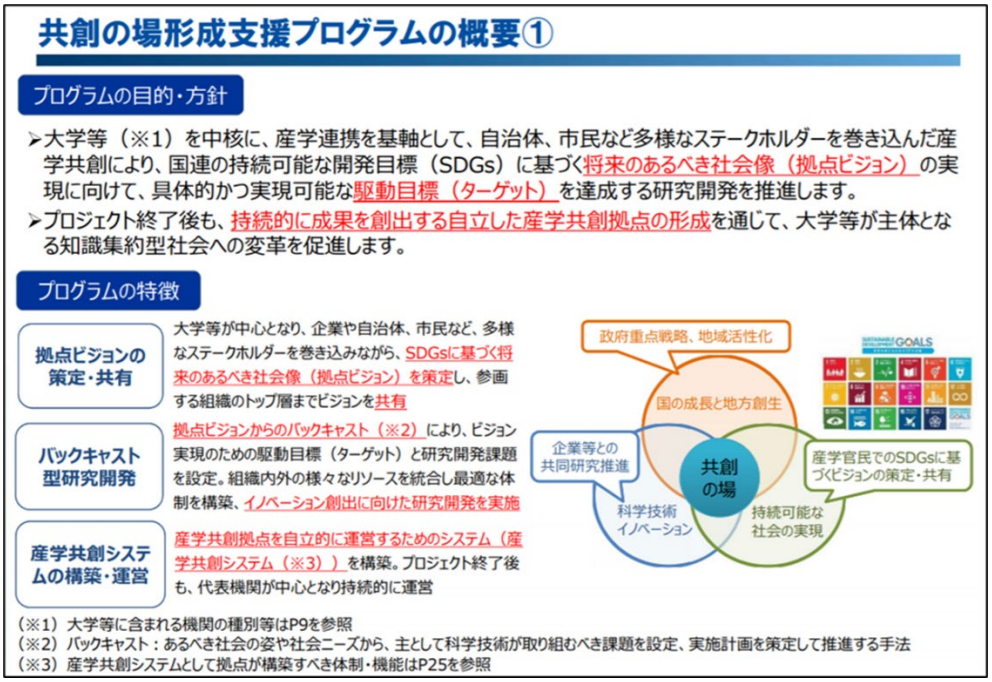
１、「共創の場形成支援プログラム」について

本プログラムでは、大学などを中核とする産学連携を基軸に自治体、市民など多様なステークホルダーを巻き込んだ産学共創により、国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に基づく未来のあるべき社会像（拠点ビジョン）を策定し、「拠点ビジョン実現のためのバックキャスト型研究開発」とそれを支える「持続的な運営が可能な産学共創システムの構築」をパッケージで推進します。これにより、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学共創拠点の形成を目指す令和２年度より開始された新規プログラムです。

公募には「本格型」と「育成型」の２つの実施タイプがあり、「育成型」で採択されたプロジェクトは、プロジェクト終了年度に「本格型」への移行評価が実施されます。

（１）本格型
実施期間：最大 10 年度支援
予算規模：最大 3.2 億円程度／年度

（２）育成型
実施期間：最大２年度支援
予算規模：2,500 万円程度／年度



２、研究プロジェクトについて

プロジェクト名：「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」

プロジェクトリーダー：竹村明洋（理学部　教授）

副プロジェクトリーダー：羽賀史浩（研究推進機構　上席 URA）

拠点の全体管理を担う組織の代表：木暮一啓（研究推進機構長（理事・副学長））

研究開発課題リーダー：竹村明洋（理学部　教授）、千住智信（工学部　教授）、島袋亮道（地域連携推進機構　特命准教授）

参画機関：沖縄工業高等専門学校、オリオンビール株式会社、株式会社メイキット、
株式会社マチス教育システム、エコソーラー・ジャパン株式会社、中城村

プロジェクトの概要：

【提案内容】

持続可能社会は世界的課題であるが、資源・環境制約と経済を両立することは容易ではなく、社会モデルの転換が必要である。

本プログラムでは、解決策として沖縄をベースに「食」と「エネルギー」の循環社会モデルの形成を目指す。その基本的な考え方は、個別問題の最適化ではなく、複数の問題を相互に連携し、包括的に解決する全体最適化である。主な要素技術としては、閉鎖循環型陸上養殖、再生可能エネルギー、廃棄食料の資源化等であるが、それらをデジタル技術を屈指して連携し、最適な循環社会を実現することを目標とする。本モデルは、沖縄だけでなく、亜熱帯海洋性の島嶼モデルとして、東南アジアの循環社会モデルとなることを目指す。

【プロジェクト説明図】

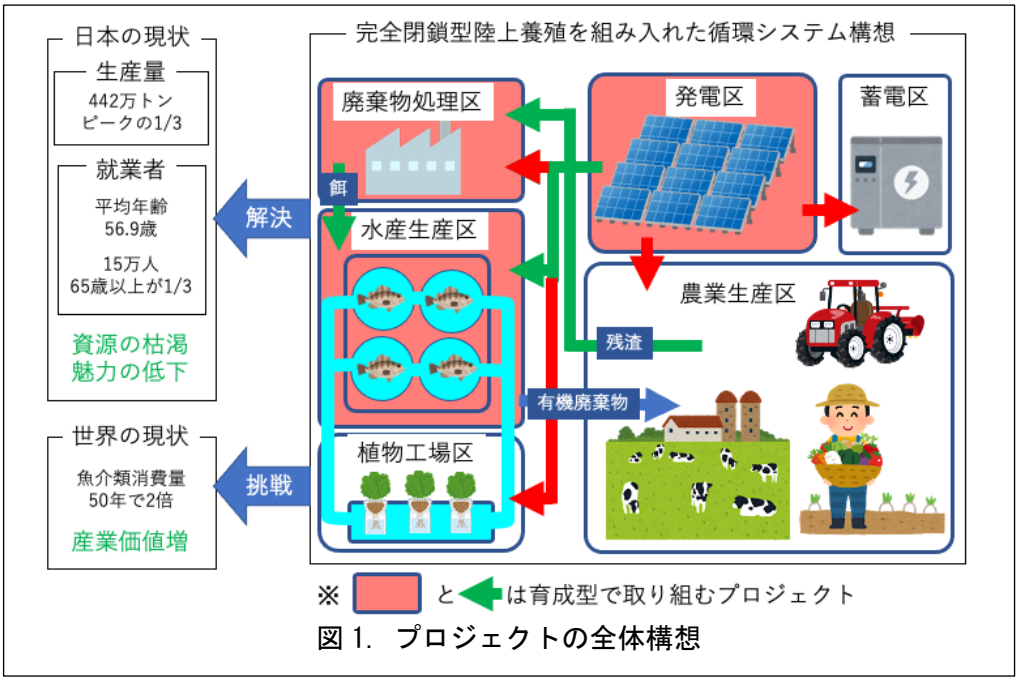


図 1.　プロジェクトの全体構想

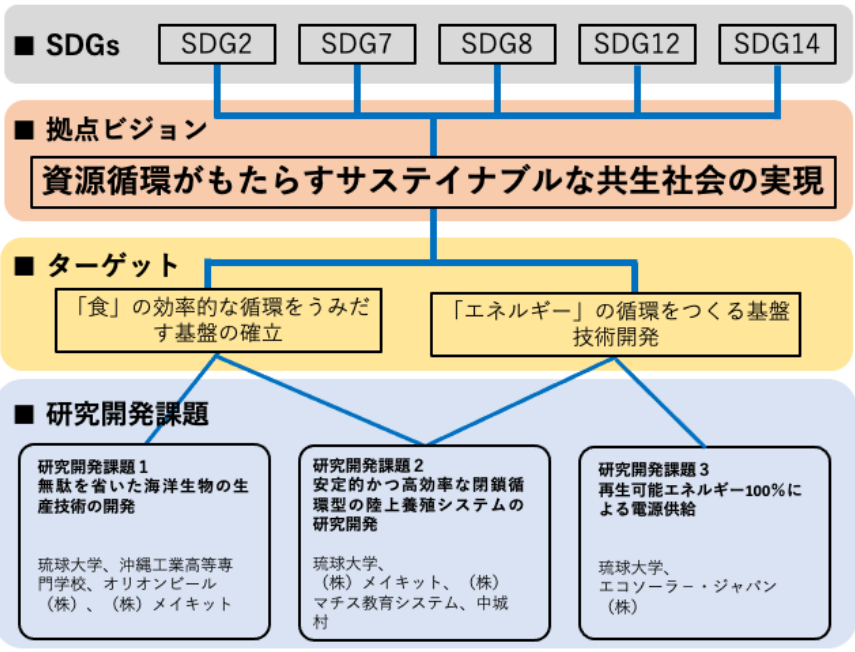


図 2.　産学共創シナリオの構成図

【参考プレスリリース】

（１）JST：共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）令和２年度新規採択プロジェクトについて
https://www.jst.go.jp/pr/info/info1475/index.html

（２）琉球大：オリオンビールと研究推進機構との SDGs に関する産学連携協定の締結について
https://www.u-ryukyu.ac.jp/news/18623/

（３）琉球大：中城村養殖技術研究センター（NAICe）の開所式を行いました
https://www.u-ryukyu.ac.jp/news/17767/

資料３

公益財団法人中島記念国際交流財団助成
2020年度留学生地域交流事業

SDGsグローカルリーダーシップ
地域交流事業

事業主旨

本事業は、琉球大学の留学生の短期受入「グローカルリーダーシッププログラム」によるSDGs（持続可能な開発目標）課題解決活動を通じた留学生と地域との交流促進を目的とする。

SDGsの中でも特に４)質の高い教育、８)労働環境と経済成長といった島嶼地域としての沖縄が避けて通れない課題について、留学生の多様な視点を活用し、離島とのオンライングローバル教育、地域振興のための持続的観光マネジメント・モニタリングを実施する。

- 離島とのオンライングローバル教育交流
  (SDGs #4 質の高い教育)

- 地域振興のための持続的観光マネジメント・モニタリング
  (SDGs #8 労働環境と経済成長)

期待される波及効果

本事業の実施により、教育機会の不均衡にあえぐ離島地域に、グローバル意識向上のための安定的かつ多様な教育リソースを提供することが可能となり、この事例は多くの離島を抱える沖縄県にとって大きな波及効果が期待できる。また、すでに観光立県としての地位を確立している沖縄県において、離島を含む観光資産に持続的かつグローバルな視点を導入することで、グローバルスタンダードに訴えうる質的転換を促進させることができる。特にコロナ禍による観光事業の停滞に対し、本事業における海外からのオンライン・モニタリングを含むグローバルスタンダードの視点の導入はビヨンド・コロナの時代に向けての発展的なソリューションの基盤作りとなる。

期待される波及効果

・離島地域へのグローバル意識向上のための多様な教育リソースの安定的供給

・グローバルスタンダードに耐えうる観光産業の質的、持続的転換（特にビヨンド・コロナの時代に向けての発展的なソリューションの基盤作り）

公益財団法人中島記念財団

ナカシマホールディングス株式会社が、岡山県内の留学生支援およびスポーツ振興を目的として設立した記念財団。２０１３（平成２５）年に一般財団法人として設立され、２０１４（平成２６）年、公益財団法人に移行。

公益財団法人中島記念国際交流財団助成
2020年度留学生地域交流事業

独立行政法人日本学生支援機構が、公益財団法人中島記念国際交流財団から委託された資金を基に、地域における外国人留学生と日本人等住民との相互理解促進に係る事業を助成することにより、日本の諸地域における外国人留学生の適切な受入れ環境を整備し、留学生交流を推進することを目的とする。

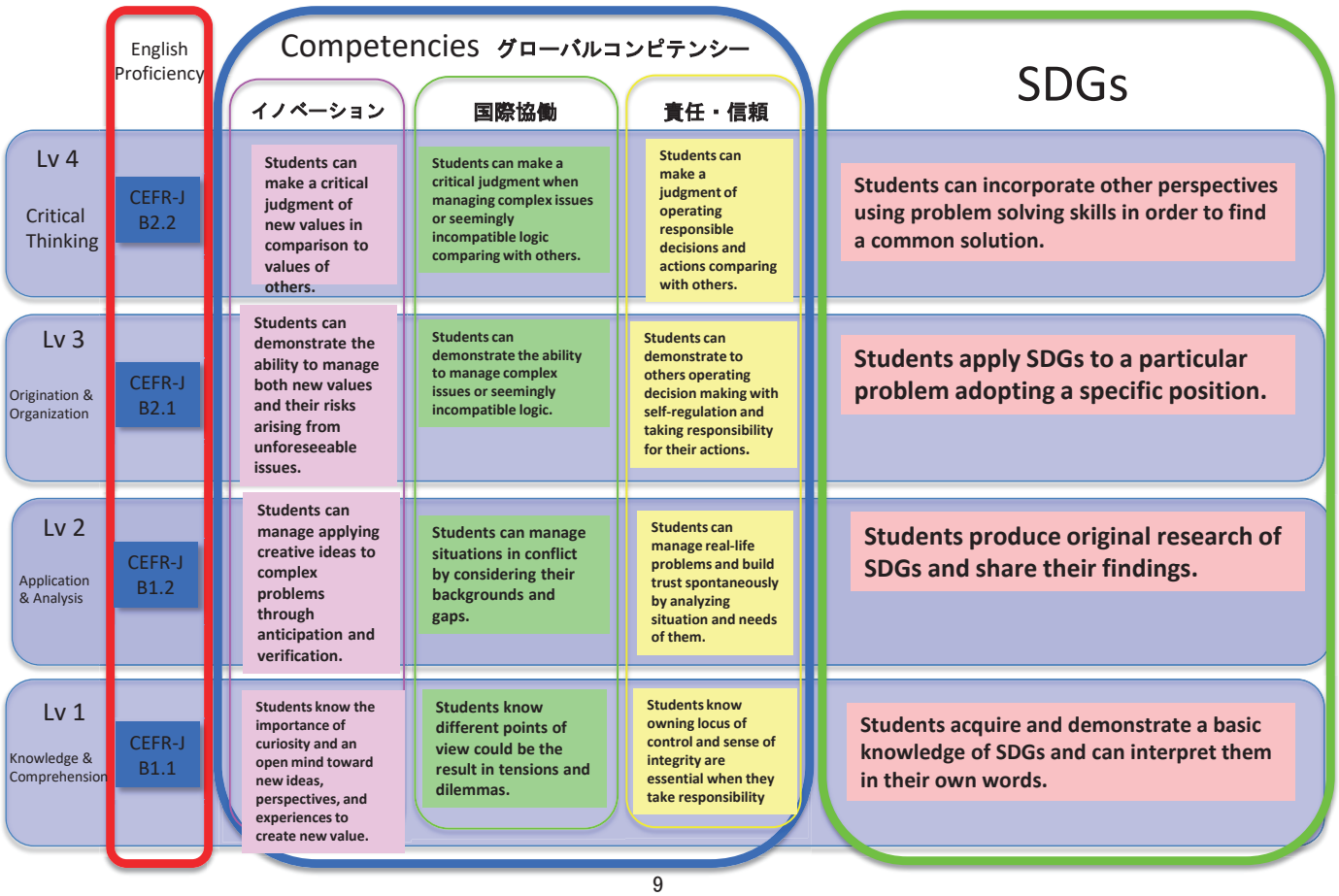
琉大のグローバル化

・短期受入グローカル・リーダーシッププログラム

・グローバル津梁プログラム副専攻

＊国際共修を通じて協働

Learning Goals 学修目標



琉大のグローバル化

- 短期受入グローカル・リーダーシッププログラム
- グローバル津梁プログラム副専攻

留学生との国際共修による、グローバル・グローカルな視点での地域課題への取組

チャンプリンガル
Champlingual

国際共修においては、言語の多様性を尊重しています。英語によるコミュニケーションを基本としながらも、日本語、うちなーぐちの学習を望んでいる学生、あるいはそれ以外の言語しか使用できない学生に対し、目的に応じて適切な言語使用を推奨し、最終的にはSDGsの目標である「だれ一人取り残さない」コミュニケーション空間を創出しています。

SDGsグローカルリーダーシップ
地域交流事業

伊江島　11/27・28

伊江中学校とのグローバル交流
伊江島観光資産のモニタリング

南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

SDGsグローカルリーダーシップ
地域交流事業

参加者

留学生2名
　パラオ共和国1名、ブラジル1名
元留学生2名
　マーシャル諸島共和国2名
オンライン参加留学生
　台湾1名、インドネシア1名

伊江島　11/27

伊江中学校とのグローバル交流

空手体験

玉城校長自らの指導

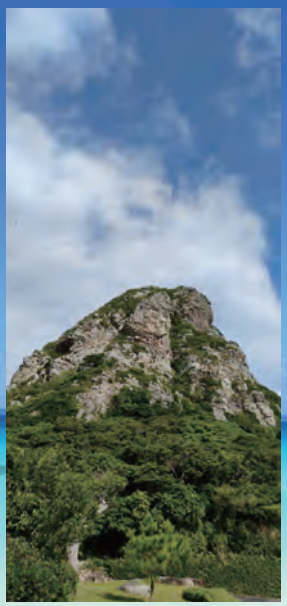
伊江島　11/27

伊江中学校とのグローバル交流

海外とのオンライングローバル交流

伊江島　11/28

伊江島観光モニタリング



南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

斎場御嶽ガイドツアー

伝統衣装体験

(SNSで世界中からの反響が最も大きかった一枚)

南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

ヒーリング乗馬体験

南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

第一次産業再興のためのイチゴ農園体験

本国の観光産業開発としての技術輸入も検討

南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

奥武島ビーチクリーン

インドネシア

オンラインで海外から
モニタリング！

南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

マインドフルネス瞑想

聖地を巡りながらの心の原点回帰

南城市　12/5~7

南城市ウェルネス観光資産モニタリング

アクティビティの後
香港理工大の学生とのオンラインディスカッション

Glocal Festival
グローカルフェスティバル

SDGsグローカルリーダーシップ
地域交流事業

1月
フィードバックプレゼンテーションを予定

FIT2020 情報科学技術フォーラム

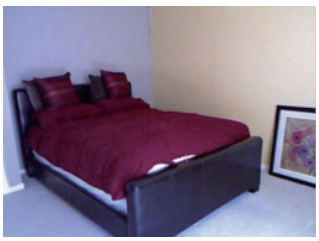
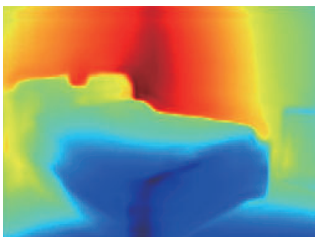
・H14年度に制定された全国規模の学会大会
　情報処理学会と電子情報通信学会が共催
・電子・情報・通信の技術開発に関わる論文を掲載
　例年400～500件ほど

ヤングリサーチャー賞

1. 共催のいずれかに属する33歳未満の学会員であること
2. 選奨セッション（査読付き）または一般セッションの
　発表論文であること（学生セッションは含まない）

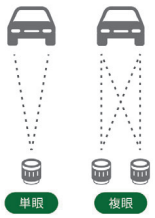
・以上を満たす発表論文のうち
　全発表論文の1.5%未満の数で，優れた研究を表彰する仕組み
・今年は４件の論文が表彰された

1.深度推定とは

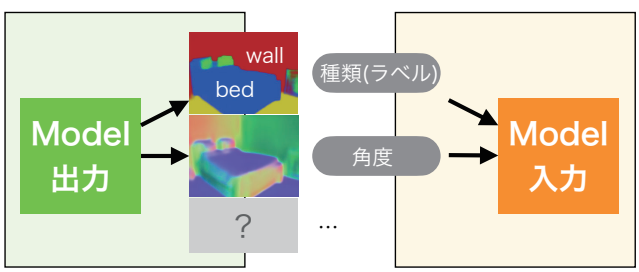
深度　カメラから**被写体までの距離**
欲望　**画像1枚で精度の高い推定がしたい**

2.単眼と縮尺



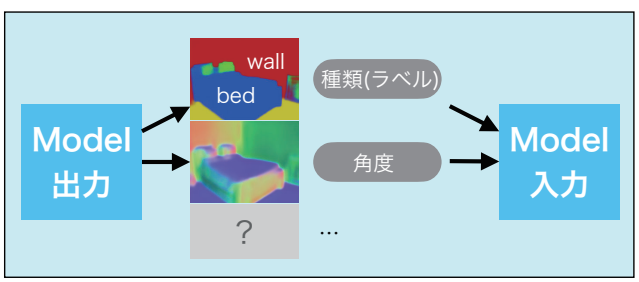
深度の逆算には**原寸の情報**が必要
でも画像1枚だけからは**求められない**…

3.実寸情報の代替



Multi-task　**出力＝汎用性を増やし補助**
Multiple　**入力＝ヒントを増やし補助**

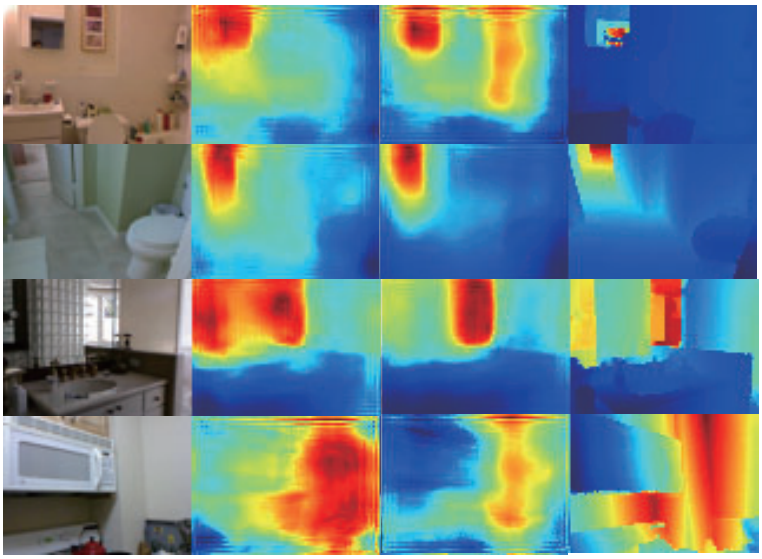
4.統合モデル



Multi-task+Multipleの統合モデル
深度勾配（物体の形状）を推定し精度UP

実験結果の可視化: 教師あり学習

RGB　従来　**提案**　正解　平均深度



1.03m

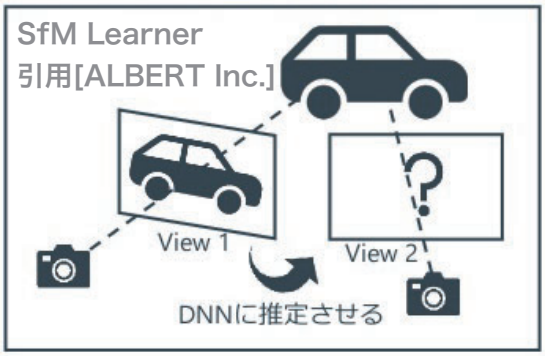
2.20m

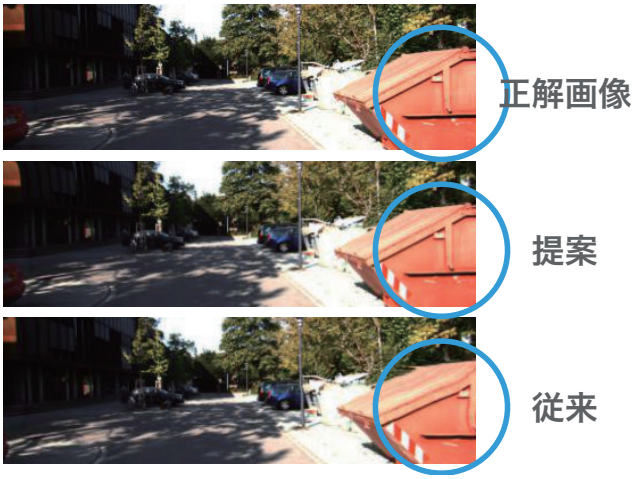
3.23m

5.45m

・0m~10mを対象とした屋内データセットに対し
推定精度を平均50cm改善した

実験結果の可視化: 教師なし学習





正解画像

提案

従来

根本的なアイデア

・深度＝3D空間を再現できれば
カメラの移動量を適用して
N秒後の画像が復元できるはず

画面復元の操作

1. 深度を推定し3D空間を作成
2. **カメラの移動量を推定**
3. (2)を使って3D空間を歪ませる

・深度推定は改善できなかったが
カメラの移動量の推定を改善できた

〈参考〉

表彰

FITヤングリサーチャー賞

賞の概要	平成14年度からスタートした情報処理学会と電子情報通信学会情報・システムソサイエティおよびヒューマンコミュニケーショングループ合同の会議「情報科学技術フォーラム（FIT）」において、新進の科学者または技術者に贈呈される賞。
選考委員	FIT学術賞選定委員会（委員長：FIT学術賞選定委員会委員長）
選考方法	FIT当日に座長および聴講者から受賞候補推薦の投票をしてもらい、その投票結果を元にFIT学術賞選定委員で1次投票、必要に応じて2次投票を行い最終的にFITの全論文件数の1.5%を上限として選定する。
選考基準	FIT申込み時、及びFIT終了時において情報処理学会または電子情報通信学会の会員（申込時は入会申請中含む）であること。FIT開催年の12月31日において満33歳未満であること。FIT開催時に選奨セッションまたは一般セッションの講演者として登録かつ講演を行ったものであること。過去にFITヤングリサーチャー賞を受けたことがないもの。
表彰等	次回のFITにおいて授与。賞状、および賞金3万円。

学会について
提言/プレスリリース
表彰
学会誌「情報処理」
論文誌
電子図書館
イベント
研究会
ITフォーラム
IPSJカレンダー
会員サービス
図書販売
教育・人材育成
認定情報技術者制度
コンピュータ博物館
情報規格調査会

| FIT2020 | FIT2019 | FIT2018 | FIT2017 | FIT2016 | FIT2015 | FIT2014 | FIT2013 | FIT2012 | FIT2011 | FIT2010 | FIT2009 | FIT2008 | FIT2007 | FIT2006 | FIT2005 | FIT2004 | FIT2003 | FIT2002 |

IPSJカレンダー 学会のイベントはこちらから ▶▶▶

入会する 入会申込み方法と会員サービスのご紹介など

論文等の著作権の取り扱い ー本学会発行の出版物にご投稿される方はぜひご一読ください ー

事業部門へのお問い合わせ
事業 / 国際担当
E-mail: jigyo@ipsj.or.jp
Tel. 03-3518-8373

FIT2020

第19回情報科学技術フォーラム（2020年9月　オンライン開催）

レンダリング時の背景モデル参 照を用いたリアルタイム自由視点映像の高品質化に関する検討	渡邊 良亮君（KDDI総合研究所）
深層畳み込みネットワークの初期化アルゴリズム	邉見 貴彦君（群馬大学）
時刻ドリフトを利用した機器特徴抽出手法における経年変化の検討	小林 明珠君（小山工業高等専門学校）
深度と深度勾配の相互変換によるMulti-task learningを活用した教師なし単眼深度推定	高嶺 潮君（琉球大学）

FIT2019

第18回情報科学技術フォーラム（2019年9月　岡山大学　津島キャンパス）

SATソルバを用いたC1P分割問題の解法	原田 崇司君（高知工科大学）
脚部運動の左右同時最適化に基づくヒューマノイドロボット受身制御	岩田 滉平君（名古屋工業大学）
部分的選好下における学校選択メカニズム	和田 凌司君（九州大学）
敵対的生成ネットワークによる間質性肺疾患患者の予後予測	植村 知規君（Massachusetts General Hospital／九州工業大学）
フリッカに基づく固有画像分解とその色補正への応用	大屋 瑠璃君（九州工業大学）
鑑賞行動における記憶促進のための音声ガイド呈	平林 輪樹君（東京大学）